

令和6・7年度
鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校

研究主題

運動の楽しさを味わいながら、
主体的に運動に取り組む子供の育成



令和7年9月19日(金)
薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

1 はじめに

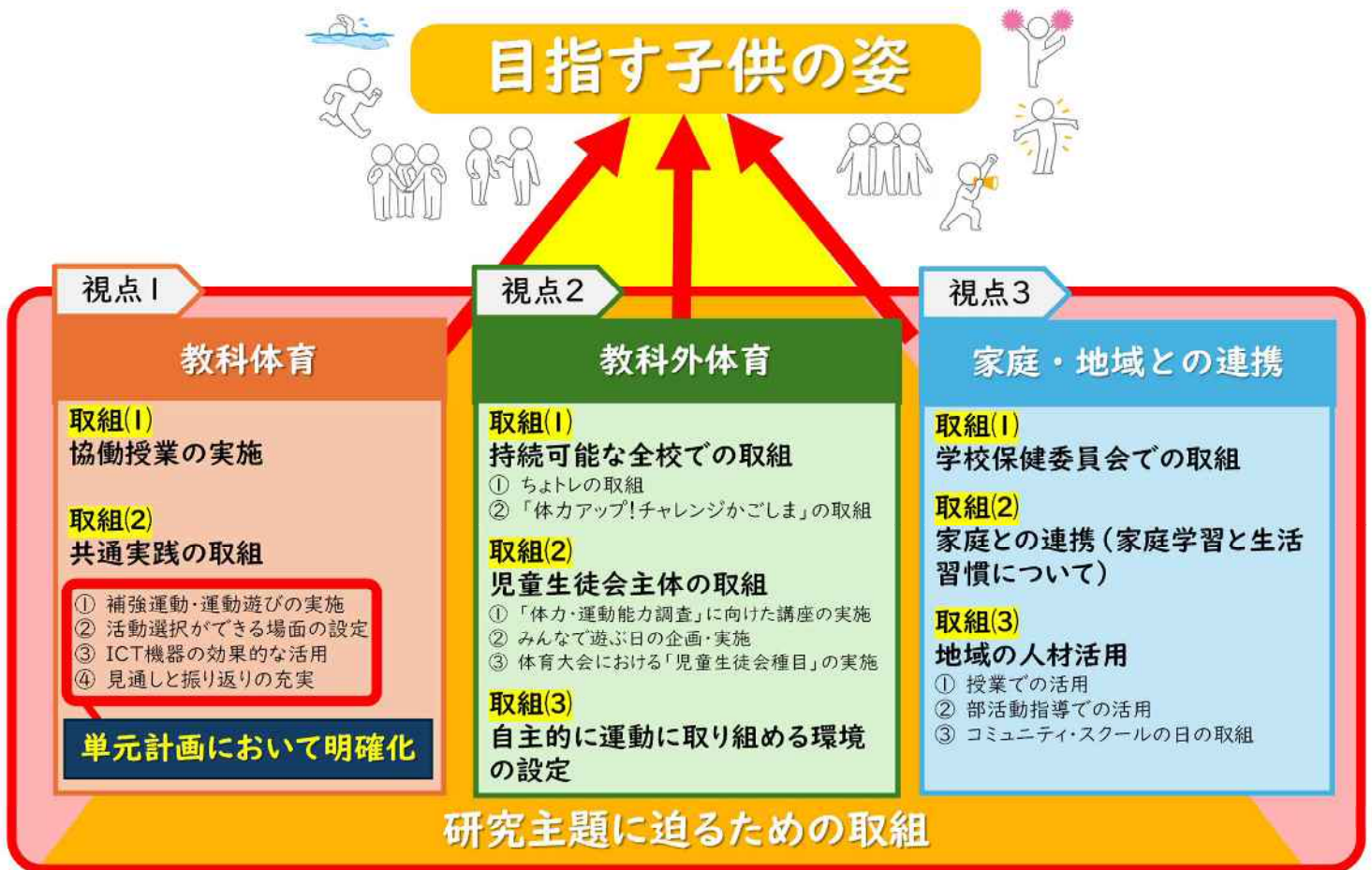
本校は、平成31年4月に開校した義務教育学校であり、9カ年を見据えたカリキュラム編成や一貫した指導の充実に努めている。また、コミュニティ・スクールとして、育てたい子供像や目指すべき教育ビジョンを保護者や地域の方々と共有し、協働した学校運営を行っている。

令和6年度に鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校となって以降、本校の子供の実態に基づいて、体育科・保健体育科を中心に全校体制で「運動大好き“東郷っ子”」を育成していくための研究を進めてきている。学習指導要領や令和5年度までの子供の実態、学校教育目標などを踏まえ、研究主題を「運動の楽しさを味わいながら、主体的に運動に取り組む子供の育成」と設定した。

2 目指す子供の姿

- 1 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動に関わることが好きな子供
- 2 主体的に運動に関わろうとする子供
- 3 自己や集団の課題解決に向けて粘り強く取り組む子供

3 研究構想図



- △ 進んで運動に取り組む意欲が低い子供が一定数いる。
- △ 「体力・運動能力調査」の項目で全国平均を下回る種目が毎年複数ある。

本校の実態

- △ 授業者によって体育科・保健体育科の授業の進め方に差がある。
- △ 授業以外での運動時間が減少している。

視点Ⅰ 教科体育における取組

(1) 協働授業の実施



【協働授業の様子】



【後期課程教諭による前期課程の子供へ指導】

本校では、「児童生徒の実態や、9年間の学びの系統性を踏まえ、前期課程と後期課程の教諭が協働して授業づくりを行うことで、児童生徒の学力の向上を目指す」ことをねらいとして、「協働授業」を実施している。特に、体育科・保健体育科においては、前期課程中学年段階で、運動嫌いや意欲に個人差が見られる。そこで、後期課程教諭が指導に入ることによって、子供が意欲的に取り組み、技能の向上を図ることができるようにしている。

(2) 共通実践の取組

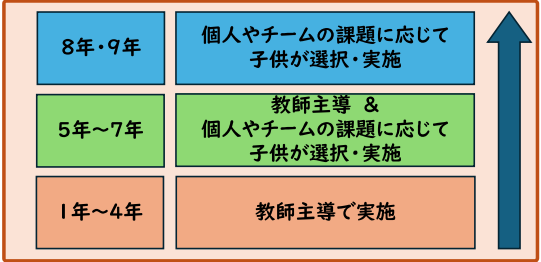
前期課程においては、各学級担任が授業を行っている。そのため、学級・学年によって指導に差が出てしまうという課題が見られる。そこで、体育科・保健体育科の授業における共通実践事項を明確にすることで、9年間を通した一貫した指導が行われるようにしている。

① (主運動につながる)補強運動・運動遊びの実施

主運動につながる運動遊びや補強運動に取り組む時間を、全ての単元において毎時間設定している。特に後期課程では、主運動につながる運動遊びや補強運動の例を示し、子供が個人やチームの課題に合わせて選び主体的に取り組めるようにしている。



【主運動につながる補強運動】



【運動遊び・補強運動の取組系統図】

② (個人やチームの課題に応じた)活動の選択ができる場面の設定



【チームで課題を確認】



【課題に応じた活動】

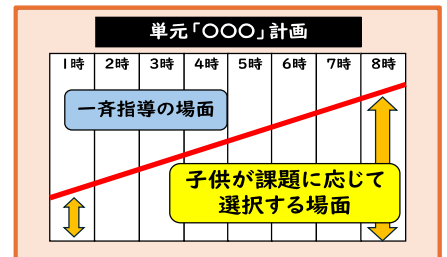
発達の段階や子供の実態に応じて、「一斉指導」や「同一内容」ではなく、個人やチームの課題に応じて、自分たちで活動を選択できる場面を設定している。そのために、「何が課題か」子供自身が明確にするための時間設定(④との関連)や、教師の発問を重視している。また、単元の中で、「子供が課題に応じて選択する場面」と「一斉指導」とのバランスを意識するようにしている。

③ ICT 機器の効果的な活用

子供が課題を把握することや、子供同士が関わることができるようにするために、モデル動画を視聴したり、動きを撮影したりするなど、積極的にICT機器の活用を図っている。



【動きの撮影】



【単元で選択する場面】

④ 見通しと振り返りの充実

導入時に、個人やチームの目標を明確にし、その目標達成のために、どのような取組をすればよいか見通しをもつ時間を確保している。また、終末時には、「何ができたか」「新たな課題は何か」を振り返ることで、次の時間の見通しをもつことができるようにしている。このように子供が自らの学びをデザインできるようにしている。



【振り返りカード】

視点2 教科外体育における取組

(1) 持続可能な全校での取組

① ちょトレの取組

「ちょっとトレーニング」を略して「ちょトレ」と称し、全学級の朝の会の時間に、教室でできるトレーニングや運動遊びを行っている。行う内容は、「体力・運動能力調査」の結果を基に、児童生徒会保健体育部で検討し、週替わりで示している。



【ちょトレの取組の説明シート】

② 「体力アップ!チャレンジかごしま」の取組

体力アップと学級の絆を深めることを目的とし「体力アップ!チャレンジかごしま」に、全学級、授業時間や休み時間等で取り組んでいる。特に、一校一運動を「縄跳び運動」と設定しているため、「長縄エイトマン」の取組申請は、毎年100%である。また、5～9年生の体育大会種目にもなっているため、目的意識をもって練習に取り組んでいる。



【体育大会の様子】



【取組の掲示物】

(2) 児童生徒会主体の取組

① 「体力・運動能力調査」に向けた講座の実施

後期課程野球部に所属する子供が主体となり、前期課程の子供を対象に体力・運動能力調査の「ソフトボール投げのこつをつかもう講座」を実施した。



【講座の様子】

② みんなで遊ぶ日の企画・実施

児童生徒会（保健体育部）の「運動時間を確保しよう」という目標を達成する取組として、定期的に昼休み時間に「みんなで遊ぶ日」を設定し、学級ごとに様々なスポーツを実施している。また、実施学級を指定して、異学年で遊ぶことで、前期課程と後期課程の子供の交流を図る取組も行っている。

③ 体育大会における「児童生徒会種目」の実施

後期課程の子供が主体的に、企画・立案・練習・実施ができるように、体育大会に「児童生徒会種目」を新たに追加し、子供自身が、どんな種目を実施するか考えることができるようにしている。



【児童生徒会種目】



【みんなで遊ぶ日の様子】



(3) 自主的に運動に取り組める環境の設定

年間を通して、朝の時間に体育館を開放し、縄跳び運動や綱引きなど、子供が自主的に運動に取り組めるようにしている。また、体育的行事等に向けて、モチベーションを高め、進んで練習できるように、取組シートの作成や音楽を流すなどの取組をしている。



【朝の自主的な運動】



【朝の持久走大会練習】

視点3 家庭・地域と連携した取組

(1) 学校保健委員会での取組

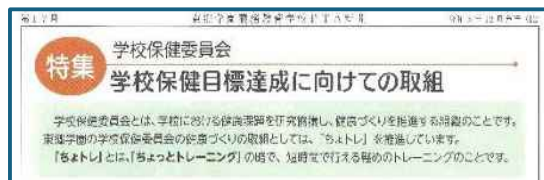
学校保健委員会の年間テーマに、「運動を通じた、親子の触れ合い」という文言を入れ、親子で運動を通じた触れ合いをする具体的な取組を各学年で計画・実施している。取組の様子を、特集としてPTA新聞に掲載し、発信している。

また、講師を招聘して親子でできる運動・ストレッチ講座を行っている。



【学校保健委員会】

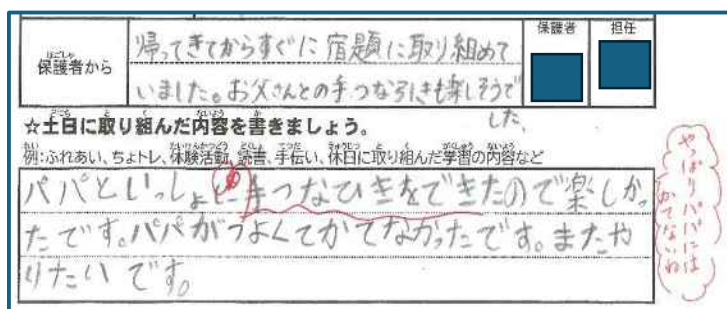
【親子で運動・ストレッチ講座】



【PTA新聞特集記事】

(2) 家庭との連携（家庭学習と生活習慣について）

毎月「チャレンジウィーク」という週を設け、家庭学習と生活習慣をチェックするようにしている。項目の中に「何時に寝たか。」「何時に起きたか。」「朝ごはんを食べたか。」「親子でどんな触れ合いをしたか。」などの項目を設け、担任と保護者で確認し、健康な生活習慣の確立を目指している。



【チャレンジウィークの振り返り】

(3) 地域の人材活用

① 授業での活用

9年生の球技「サッカー」の授業で、サッカーを専門的に指導している指導者に出前授業をしてもらった。専門性の高い指導をもらうことができ、「分かった」「できた」という経験を増やすことができた。

また、憧れをもった子供もいた。



【球技「サッカー」の出前授業】

② 部活動指導での活用

バスケットボール部では、外部コーチとして、地域の方に指導していただいている。より専門性の高い指導を受ける機会を設定することで、競技レベルの向上につながっている。今後は、他の部活動でも外部コーチとなる地域の人材を募る予定である。



【外部コーチによる部活動指導】

③ コミュニティ・スクールの日の取組

年に一度、コミュニティ・スクールの日を設定し、地域の方々・保護者と子供が、一緒に運動を楽しむ日を設けている。運動内容は、「ペタンク」「グランドゴルフ」など、高齢者も子供も共に楽しめる運動を中心に行っている。

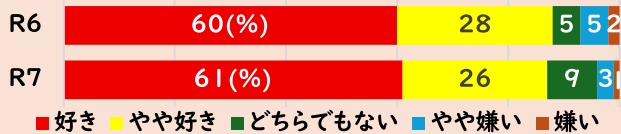


【コミュニティ・スクールの日(毎年11月第2土曜)】

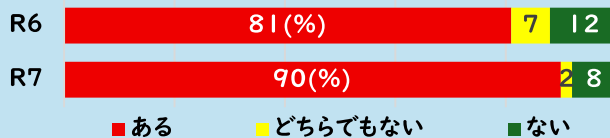
4 成果と今後に向けて

(1) 意識調査結果の比較(調査対象:第3学年から第9学年の子供)

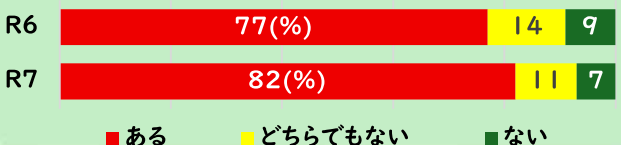
① 運動をすることは好きですか



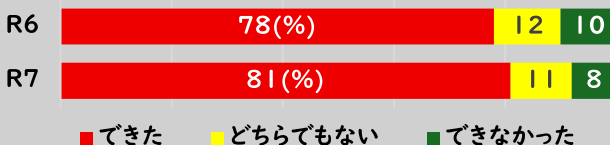
② 運動をしていて楽しさを感じることはありましたか



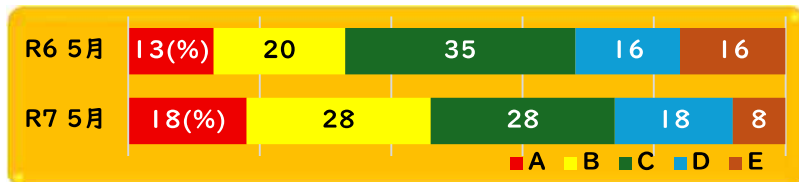
③ 進んで運動したいと思うことができましたか



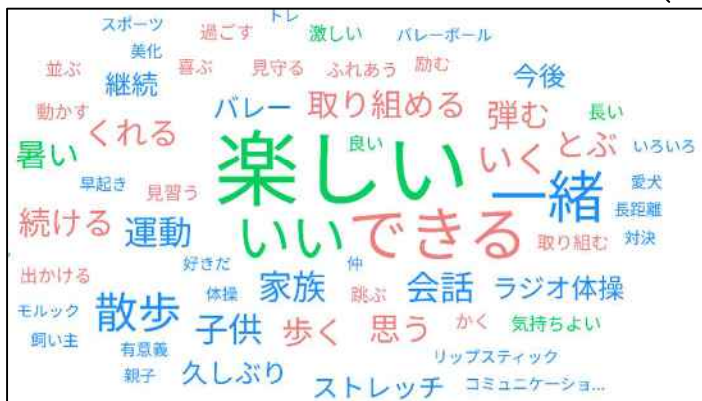
④ 苦手な種目でも、自分なりに工夫して最後まで取り組むことができましたか



(2) 「体力・運動能力調査」総合評価の経年推移(第6学年と第9学年合計の割合)



(3) 家庭で子供と触れ合う時間に対する自由記述(調査対象:第7学年から第9学年の保護者)



【 テキストマイニングの結果 】

考察

意識調査結果は、ほとんどの項目が前年度よりも、肯定的評価の割合が増えている。また、「体力・運動能力調査」の総合評価結果も、AやBの割合が増えている。さらに、保護者の自由記述からは、親子で運動に取り組んだことに対して肯定的な語句が多く表出していることが分かる。

これらのことから、これまでの取組に一定の成果があったと言える。

成果

- 体育・保健体育における学習の系統性を踏まえ、共通実践事項を明確にし、各学年で取り組むことで、一貫した指導の充実を図ることにつながった。
- 意識調査の結果を比較すると、運動をすることに対して肯定的評価の割合が増えており、運動の楽しさを味わいながら、主体的に運動に取り組む意識が高まっていると言える。
- 「体力・運動能力調査」の結果については、全体の3割の子供が、前年度と比較して総合評価が上がっていた。また、個人得点も経年比較すると、8割の子供が前年度を超える記録となった。
- 親子で運動を通して触れ合う「チャレンジウィーク」の取組については、習慣化を図ることができつつあり、保護者からも「会話が増えた。」「楽しい時間である。」など多くの家庭から肯定的な感想が寄せられた。

今後に向けて

- 意識調査の全体的な結果としては、肯定的評価が高まっているが、一方で、肯定的評価が低くなった学年もあった。学年や子供の実態に応じた取組を継続して行っていく必要がある。
- 生活習慣の確立など、健康面からのアプローチが必要な子供がいる。家庭での過ごし方を改善するよう働きかけるなど、家庭や地域との連携を密に図っていく必要がある。